

## ネイティブウサギホスホリーゼb

Cat. No. NATE-0563

Lot. No. (See product label)

### はじめに

#### □明

ホスホリーゼbは非活性型であり、安静時の筋肉に存在します。ホスホリーゼbキナーゼの活性は、Mg<sup>2+</sup>:ATP比が超えると著しく増加します。筋収縮中のATPの分解は、ホスホリーゼbのin vivo交換を引き起こすと考えられています。ホスホリーゼbは、イノシン一リン酸によって活性化されます。

#### 用途

ホスホリーゼbは、筋肉における不活性ホスホリーゼbから活性ホスホリーゼへの交換メカニズムを研究するために使用されます。ホスホリーゼbは、温度、AMP、フッ化物、洗剤など、ホスホリーゼbからホスホリーゼaへの交換に影響を与える要因を研究するために使用されます。また、ホスホリーゼb欠損異の研究にも使用されます。Creative Enzymesの酵素は、メチルアミン脱水素酵素サブユニットの分子量を研究する際に、セファロースC1-6Bカラムのキャリプレーションに使用されました。これは、チャージ還元バッファー内でスーパーチャージ試験を用いて生成されたホスホリーゼBイオンのイオンモビリティ-質量分析研究にも使用されています。また、ホスホリーゼキナーゼと[32P]ATPを使用してp32標識ホスホリーゼAの調製にも使用されています。

#### 別名

ホスホリーゼb; EC 2.4.1.1; 9012-69-5; 筋肉ホスホリーゼaおよびb; アミロホスホリーゼ; ポリホスホリーゼ; アミロペクチンホスホリーゼ; グルカンホスホリーゼ; α-グルカンホスホリーゼ; 1,4-α-グルカンホスホリーゼ; グルコサンホスホリーゼ; グラニュロースホスホリーゼ; マルトデキストリンホスホリーゼ; 筋肉ホスホリーゼ; ミオホスホリーゼ; ジャガイモホスホリーゼ; デンプンホスホリーゼ; 1,4-α-D-グルカン:リン酸 α-D-グルコシルトランスフェラーゼ; ホスホリーゼ (あいまい)

### 製品情報

#### 種

ウサギ

#### 由来

ウサギの筋肉

#### 形態

タイプI、乳糖、5'-AMP、およびMg (OAc)2を含む凍結乾燥粉末（100 mgのタンパク質あたり10 μmole）；タイプII、凍結乾燥粉末、淡黄色。

#### EC番号

EC 2.4.1.1

#### CAS登録番号

9012-69-5

#### 分子量

mol wt 97.2 kDa by calculation

#### 純度

2×結晶化

#### 活性

タイプI、> 20ユニット/mgタンパク質；タイプII、> 7ユニット/mg。

#### 混入物

~0.01 μmol/mg タンパク質 5'-AMP（この低レベルは、ホスホリーゼおよびホスホリーゼキナーゼアッセイに干渉しません。）

#### 単位定義

1ユニットは、30°CでpH 6.8の条件下で、グリコーゲンとオルトリントン酸から5'-AMPの存在下で1分あたり1.0 μmoleのα-D-グルコース1-リン酸を生成します。この反応は、ホスホグルコムターゼ、NADP、およびグルコース6-リン酸脱水素酵素を含む系で測定されます。（1μモル単位は約45コリ単位に相当します。）

### 保管・発送情報

#### 保存方法

-20°C

